

令和6年度 園評価書

園番号39園名小島こども園

I 経営の重点に関わること評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1教育・保育目標	2重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
「心豊かなたくましい小島の子」	「好き！」「おもしろい！」をいっぱいみつけよう！	自分の好きな遊びを楽しむ中で面白さを見つけ、考えたり工夫したりして満足するまで繰り返し遊ぶ	保育者が子ども達の興味を捉えて遊びの場の保障や時間の確保を意識したり子どもの思いを丁寧に受け止めていったりした事で、子ども達が自分でやりたいことをみつけてアイデアを出しながら楽しんでる姿や自分の好きな遊びを繰り返す姿がみられた。しかし、遊びに対しての自分の思いやこだわりがまだ弱く、遊びを継続したり満足するまで楽しむ姿までは到達していないように思う	B	A	・いつ見ても、子どもの表情と動きに楽しさがにじみでている。物的環境、人的環境が整っている証拠。子どもの思いを大切にしたかわりが職員間で共有され共通実践されている ・家ではこだわって遊ぶ姿もあるが、園では友達の影響や面白そうながが多いので、遊び込むところまでいかないかもしれない。でも浅く広くでもいいのかなと思う ・思いを伝えることに個人差はあることは当然だが、保育者はその子に合わせて待つ、聞く、他の子に伝える援助をしていると思う。「自己決定」「自分で」が大事だと思う ・自分の行動が周りの人の為に役立っていることや、それが周りの人の喜びにつながり、子ども自身の自己肯定感が高まっている	・保育者自身がこだわりをもって保育していくためには、自分自身の感性を豊かにし、意識を高くもつことも大切である。子どもの今に適している遊びや援助の仕方はどうかを考えたり、季節の変化に気付き取り入れる遊びをしたり、遊びの始まりや過程を大事にしつつ終着をどうしたいかなど、常々考えて学んでいく姿勢を大切にしていきたい ・自分の思いを伝えきれていない子には、保育者がさりげなく後押しをしたり、良い考えや思いがあった時には見逃さずに思いを引き出し、相手に思いを伝える経験を繰り返すことができるようにする ・挨拶、片付けは日々の積み重ねが大事。生活習慣を定期的に見直ししながら、一人一人に丁寧に関わっていき、保護者にも生活習慣の大切さや園での様子を知らせていく
		自分の思いを伝えようとしたり、友達の良さを見つけ、興味を持ち聞いたり話したりする	保育者が自分の言葉で伝える場面を意識し繰り返し伝える場をつくる中で、子ども達が自分の思いを伝えようとする姿が増えていった。個人の差があり、思いを伝えきれていない子もいる	B	A		
		様々な人に親しみを持って挨拶をしたり、自分から身の回りのことや片付け、手伝いなどやろうとする気持ちをもち	地域の方や小学校など、様々な人との関わりを保育者が意識してくことで、子ども達も自ら挨拶をしたり関わろうとしたりする姿が増えた。また自分達が使う場所や道具などを掃除したり片付けたりすることで、自分たちで進んで行おうとする姿になってきている	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	個々の発達や経験の差を職員間で共通理解し個々に応じた教育・保育を行っている	毎日の振り返りの中で、職員間で個々の姿を伝え合いながら援助の仕方等を共通理解していることで、子どもに対して同じ対応ができたり、担当以外の職員から子どもの様子を聞いたりアドバイスをもたらしたりすることができ、子ども達が安心して自己発揮する姿につながっている	B	A	・「職員間で共通理解」「個々に応じた教育・保育を行っている」ここは小島こども園の大きな強み。昨年度から保護者の評価が大幅に上がっているのは、園として、職員としての努力の賜物だと思う。職員の振り返りや情報共有の時間を確保していることで、子どもへきめ細やかな対応ができていると感じる。 ・家では急かしてしまいがちな生活になりやすいが、園では時間の余裕をもって生活を行っているのではなか ・子どもの興味・関心をそそる環境、子どもの意欲を掻き立てる環境、安全で安心な環境、どれもとても素晴らしいと思う。このことが「自分でやりたいことをみつけて」につながっている	・子どもの発達や経験させたいことを明確にし、一人一人に合わせた関わりをするとともに、職員間で情報共有し、園全体で個を見ていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	一人一人の気持ちを温かく受け止めたり生活の仕方やリズムに配慮したりして園生活が送れるように心がけている	その子の生活リズムや体調など保護者や職員間で共有し、その子に合ったリズムで過ごせるように配慮することで、一人一人が安心してゆったりと過ごせている	A	A		・生活リズムや生活習慣の把握を丁寧に行っていき、一人一人が安心して過ごせることができるようにしていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの思いや遊びが楽しくなるような環境（遊具・教材）を毎日の遊びから振り返り工夫し準備している	保育者が子どもの発達や興味、季節を捉えて環境の準備を行ったことで、子ども達が自分でやりたいことをみつけて楽しむ姿がみられた。保育者自身が感性を培ったり、様々なモノやコトに気づいたり、経験を重ねたりすることが、保育につながっていくことを意識した	B	B		・子ども達は身近な環境に好奇心をもって関わる中で、様々な経験を積み重ね、心も体も育っていく。保育者自身が日々感性を磨き、自分の知識やスキルを高めながら、子どもの発達や興味、季節に合わせた環境を整えていく
2安全管理・指導	(1)事故防止・防災	さまざまな災害や事故について想定した訓練を実施し、その時々に着実に行動出来るよう安全や事故防止への意識を高めている	様々な想定をして繰り返し訓練を行い、状況に応じた動きを意識しながら取り組んでいった。子ども達は、指示をよく聞き、命を守るための行動ができるようになってきている。保育者は、瞬時に自分の動きや周囲との連携をする意識が高まった。訓練後に確認を行って、安全意識を高めている	B	B	・安全管理・指導の評価指標は永遠の課題といってもいい。訓練を超える想定外の災害や事故が起こる事は想定内と考えたい。一昨年の台風の警報時、迎えの際とても混雑した。隣の小学校も同じタイミングの迎えで、車が混雑し、身動きがとれなかった。土砂災害の警戒地域なので、スムーズな引き渡しができるよう何か対策はできないか ・子どもは大人にしてもらったことを、自分が大人になった時に同じ事ができると聞いた。毎日の生活の中で自分が知らないことはなかなかできない。保護者に伝えていくことが大事だと思う ・どの子に対しても一人一人に対して支援を大切にしている。園としてその子を支える体制づくり。担任だけではなく、みんなで個をみてくれている	・子ども達は身近な環境に好奇心をもって関わる中で、様々な経験を積み重ね、心も体も育っていく。保育者自身が日々感性を磨き、自分の知識やスキルを高めながら、子どもの発達や興味、季節に合わせた環境を整えていく
3保健管理・指導	(1)健康教育の充実	起床・睡眠の時間が安定し、また食の大切さがわかり食べることを楽しむなど「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が身についている	小学校の養護教諭に健康教育の話をしてもらったり、給食時や食育活動で食の大切さについて伝えたりしている。子ども達は食べ物や食べる事への興味が高まった。生活習慣や食事のマナーについては細かいところまで身に付いていないところがあるので、保護者にもっと発信をしていきたい	B	B		・早寝早起き朝ごはんについては絵本やペープサートなど使いながら子ども達に伝えてはいるが、発信がまだ弱く伝わりきれていない。今後は生活習慣の大切さについて子ども達の意識を高めるとともに、保護者に向けてもクラスだより等で発信をしながら、家庭と協力して行っていくようにする
4特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	一人一人の発達や個性を十分に理解し、適切な実践を行うとともに、職員間で共通理解をし保育を行っている	毎日の振り返りで子どもの姿を話し合い、成長している姿や伸ばしたい姿、支援方法などを職員間で共有している。共有することで、子どもの成長や姿に合わせた共通の支援ができている	B	A		・今後も職員の保育の振り返りの中で、子ども一人一人を捉え、発信することで職員間で共通理解していく。また支援計画や支援方法を共有し、園全体でその子に合った支援ができるようにしていく
5組織運営	(1)組織体制の充実	全職員が自分の分掌や役割に責任を持ち、計画的に進める共に連携を取り合いながら円滑な運営となるように取り組んでいる	自分の役割を周囲にも発信し、職員で協力し合って計画的に進めることができた。行事を企画、実施後に振り返りを行い、次年度に繋げられるようにしている	B	A	・少ない職員の中で多くの分掌を抱え多忙感極まりない中、職員がつながり、のりしろをもって互いに協働している様子が伺える ・積極的な公開保育を通して、見合う、語り合う、伝え合う活動や場面を創出していた ・教材研究の充実を感じる。子ども達がそれらを使い、考えながら遊んでいる。わくわくして、興味をもたせる教育が子どもの成長につながる ・今年から毎日タブレット配信で園の様子が送られてくる。園の様子がよくわかるが手書きの方が好きだった。市の方針ということで仕方ないとは思う。お迎えの時に一人一人に担任から話がある。伝えたいことは話ができる。担任以外の先生も話が共有されていたり、よく声をかけてもらえるのが嬉しい ・交流活動の豊富さと充実感を感じる。こんなに交流している園、学校は聞かない。交流し触れ合いつながることは、子どもや保護者地域にとっても安心感を得る ・地域との連携は、園づくりにおいて欠かせない。子どもの学びや成長につながるのみならず、地域の活性化にもつながる。地域教育資源を大切にして、「小島に誇りをもつ子」を育てたい	・今後も係が責任をもって企画し進められるようにする。企画後、職員間で反省を共有し、記録を詳細に残しておくことで、次年度に活かせるようにする
6研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ『「やりたい!」の思いから「もっと!」につながる援助と工夫』を意識し、毎日手だてから振り返りを行いながら園内研修を進めている	研修テーマに基づき、今年度は、子どもの発達や興味など一人一人を捉えることを意識し、毎日の振り返りの中で自身の保育を手立てに基づき省察したり、子どもの姿を職員間で共有したりし、学びを深めた。子ども達のやりたい遊びを見つけて楽しむ姿につながっている	B	A		・日々の振り返り、研修で学びを深めているので、引き続き、研修テーマに基づいた研修を行っていく。子ども一人一人の”もっと”を捉えられるようにし、才児や遊びごとと深堀りして考えることができるようにする
7教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	豊かな体験が出来るように素材研究を行ったり、園内の遊具や教材・教具、自然物など活用できるように環境づくりを行ったりしている	教材研究を行い共有することで、年齢や発達にあった教材の準備ができたり、自分自身の知識の幅が広がったりすることにつながった。また園内の環境を活用し、虫取りや木の実など遊びに取り入れたことで、子ども達の興味関心が深まった	B	A		・園の教材や自然を取り入れた保育を引き続き行っていく。また、保育者自身が様々な経験を重ねたり教材研究などすることで知識を増やしたりし、子ども達が豊かな経験ができるようにしていく
8家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園での様子や遊びの紹介をクラスだよりやボードなどの視覚を使って発信し、保護者の思いを受けとめながら子どもの育ちを共有している	子どもの様子を写真ボード、クラスだより、配信等で視覚的に発信する中で、子どもの育ちや学びを意識して伝えるようにした。また、研修における保育者の学びを記載した模造紙を貼り出して保護者に知らせ、園の教育保育について伝えていった	B	A		・引き続き園の様子や教育保育について発信していくとともに、子どもの育ちや学びをわかりやすく伝え共有していく
9近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	近隣の小学校や園との交流を行い、園児、児童、職員とのつながりを深めている	近隣校、近隣園との交流の中で、互いのことを知り一緒に学び合っている。いろいろな学年と交流ができているので、交流を継続し、関われる機会を大切にしてい	A	A		・小中学校との交流の機会を大切にし、関われる機会を大切にしながら計画的に交流を継続していく。また他園と交流する機会を作り、交流の中で互いを知ったり一緒に関わったりできるようにする
10地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	様々な体験を通して地域の人や自然、文化に触れる機会をもち「小島が好きな子」を育てている	散歩に出掛けて地域の自然や地域の方に触れたり、S型サービスのお年寄りと交流したりして、小島のことを知るきっかけをつくっている。今後も積極的に地域に出掛けていきたい	B	A		・地域に散歩に出掛け小島の文化に触れたり、S型サービスの方と交流するなどして、小島の良さを継続して伝えていきたい。園外保育の年間計画、季節など考慮した意図的な散歩計画をし、実施していきたい